

1



1_図書室の中の様子。大きな窓から入る光、可愛らしい飾りつけが温かい雰囲気を作り出す。2_最近の管理人おすすめの本。時期に合わせてその内容を変え、見やすい位置に配置されている。



2

昨年の2月14日、中央公民館1階へと場所を移し、新装オープンした中央公民館図書室が1周年を迎えました。

「子どもと子育て世代にやさしい図書室」のコンセプトのもと、運営を行ってきたこの図書室。ブックスタート事業や「読み聞かせ事業」など、そのコンセプトに合わせ、さまざまなイベントや工夫を行ってきました。

その結果、この1年間で、6,957人も人がこの図書室を訪れ、今みてください。

ぜひ気軽に立ち寄って

では町内だけでなく、町外、また県外からも利用する人が訪れるようになりました。

蔵書数が約6,000冊とその規模は小さいですが、人と人との「交流の場」として、少しずつ認知され始めています。

「小さな町の小さな図書室」だからこそできること、そして「小さな町の小さな図書室」ならではの雰囲気、これからも暖かく皆さんをお迎えます。

中央公民館図書室 1周年

この町の、この図書室だからできること

「また行こう」そう思える図書室でありたい

1人でも多くの人に利用してもらえるように

少しでも心地よい空間が提供できるように

日々、工夫を凝らしている管理人2人に話を聞きました

私たちが常日頃から「本が見やすいように」「本が手に取りやすいように」など、皆さんが利用しやすいよう工夫することを心がけています。

日食があった時期には星に関する本を見やすい位置に置く、また季節に合った小物にも気を使うなど、お互いに意見を出し合いながら、より良い図書室にしていきたいと思っています。

また、新刊や今、話題の本など、情報をいち早く入手し、それをできるだけ分かりやすく反映できるように努力しています。

蔵書数はまだ少ないですが、この図書室には他の図



大川 祥次

(写真右)

Okawa Shouji

高橋 聖子

(写真左)

Takahashi Seiko

書室にはない柔らかい雰囲気があります。のほほんとした、陽だまりのような空間の親しみやすい図書室だと感じています。ほぼ毎日来られる人や、散歩途中に子どもたちが親の手を引いて来てくれる姿が、その居心地の良さを象徴しているのではないのでしょうか。

「来たら借りないといけない」ということはありません。ちよつと覗いてみるだけでもいいんです。「一休みしてみようか」そんな気楽な感じで来てほしいと思います。

この図書室は皆さんのものです。ぜひもっと気軽に利用してください。